

早稲田大学総合人文科学研究センター研究部門「イメージ文化史」主催
2019年度 ワークショップ

「マンガの体験、メディアの体験」第4回 マンガとキャラ

日時 2019年5月31日(金) 17:00~19:30
場所 早稲田大学戸山キャンパス 36号館 6階 682教室

伊藤剛 (東京工芸大学教授)

「動いてしまう」絵、「生きてしまう」キャラ

西兼志 (成蹊大学教授)

〈顔〉とキャラ — indi-visual をめぐって

さまざまな視覚メディアとの対比のなかで、マンガを読む／見るという体験の意味を考える連続ワークショップの第4回は、マンガ表現論の画期となった『テヅカ・イズ・デッド』(NTT出版、2005年)において決定的な「キャラ」概念を提出したのちも、フレームの問題とつなげつつその概念の可能性を問いつける伊藤剛さんと、『〈顔〉のメディア論』(法政大学出版局、2016年)、『アイドル／メディア論講義』(東京大学出版会、2017年)という2冊の話題作によって、顔／キャラをめぐる革新的なメディア論を打ち出した西兼志さんが登場します。

線の集合でしかないかりそめの〈顔〉に、我々はなぜこれほどまでにつきまとわれてしまうのか、「キャラ」とともにあることで我々はいかなるメディア体験のなかに投げ込まれているのか。気鋭の論者2人が拓くマンガ論の新たな地平！

お問合せ先：総合人文科学研究センター研究部門「イメージ文化史」
imagebunkashi@list.waseda.jp